



新たなふくしまの未来を拓く園芸振興プロジェクト
～いわきの園芸復興に向けて～



記事のご紹介

2 ページ

- 新たなふくしまの未来を拓く園芸振興プロジェクト
～いわきの園芸復興に向けて～

3 ページ

- がんばる農業者 あの人この人
・下山田善裕さん（渡辺町上釜戸）
- ヘルシーベジ（広葉マコモ）の丸ごと活用プロジェクト

4 ページ

- 平成 26 年農作業労働賃金標準額
- 農業委員会委員選挙人名簿登載者数

5 ページ

- 農地流動化情報
- 農業者年金

6 ページ

- 地区だより（北部地区）
畑に実る“青い宝石”ブルーベリー
- トピックス
いわき野菜 de 「チョコベジ」
～野菜をもっとおいしく食べる新発見～



▲渡辺町彩花園の名物
イネ科マコモ属の多年草
「マコモタケ」

新たなふくしまの未来を拓く園芸振興プロジェクト ～いわきの園芸復興に向けて～

福島県が平成 25 年 4 月に策定した「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興プロジェクト」(計画期間 H25 ～ H32)に基づき、「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」(事務局:いわき農林事務所)では、いちご、ねぎ、日本なしをプロジェクト品目に選定し、品目ごとに①生産体制(人、ものづくり)の強化、②安全・安心の確保と販売対策の強化、③新たな生産システムの導入推進を重点推進施策に位置づけています。

生産体制強化の一環として、JAいわき市生産部会が中心となり、県・市・農業委員会・全農福島の連携のもと、部会員の栽培技術向上や新規作付け希望者の定着、新規就農希望者の支援など、産地規模拡大に向けた各種取り組みを進めています。

平成 25 年度いわきいちごセミナー実施状況

	実施日	主な内容	参加者 (うち新規作付け希望者)
第 1 回	H25.8.28	○市内の生産・販売状況について ○営農指導体制について ○ほ場見学	33 名(15 名)
第 2 回	H25.10.22	○病害虫防除対策について ○高設栽培について ○ほ場(高設栽培システム)見学 ○事例発表(生産者 2 名) ○新規作付け希望者との意見交換会	54 名(8 名)
第 3 回	H25.12.10	○講演:(株)平果 取締役専務 鈴木光栄氏 ○新規作付け希望者の紹介 ○生物農薬等について	28 名(8 名)

《いわきいちごの特長》

- ①いわき地域の気象条件にあった品目。
- ②福島県オリジナル品種「ふくはるか」の導入により、冬季の燃料費節減が可能であり、他産地と比較し、コスト面において有利。
- ③高設ベンチの導入など、農作業の省力化が可能。

平成 25 年度いわきねぎ新規栽培説明会実施状況

	実施日	主な内容	参加者 (うち新規作付け希望者)
第 1 回	H26.3.5	○ねぎの販売流通について ○ねぎ栽培について ○営農指導体制について	14 名(11 名)

《いわきねぎの特長》

- ①いわき地域の気象条件にあった品目。
- ②品種と播種期の選定により周年出荷が可能。
- ③収穫適期が長く、収穫時期(作業)の分散と価格動向に合わせた出荷が可能。
- ④機械化体系が確立されており、大規模栽培も可能。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋冬ねぎ			○	—	×							
夏秋ねぎ		○	—	×								

○ 播種
× 定植
■ 収穫

新規作付け希望者実地研修(いちご)

セミナー受講生のうち、新規作付け希望者(新規就農希望者を含む)を対象とし、生産者部会の指導のもと、各種作業について実地で研修を行っています。



《平成 26 年度の取り組みについて》

プロジェクト品目(いちご、ねぎ、日本なし)の生産規模拡大に向けた各種取り組みは、平成 26 年度以降も継続して実施していきます。

各種セミナーや実地研修の受講を希望される方は、下記の連絡先までご相談ください。

※日本なしに関する取り組みは、平成 26 年度開始予定

【お問い合わせ】

県いわき農林事務所 農業振興普及部

TEL 24-6162 Fax 24-6196

がんばる農業者 あの人さの人



しもやま だ よしひろ
▲下山田善裕さん(27歳) 渡辺町上釜戸

花を栽培しています。

経営規模が大きく、

とても家族だけの労働力では間にあわないため、現在4人のパート労働者を雇用しています。

大学では、花の色の研究をしてきたという善裕さんは、ハウスの中で両親や妹さん、パートタイマーの人達と作業に汗を流し、花と関わる毎日です。就農の動機について尋ねたところ、「農家の長男として生まれたから、漁師の家に生まれていたら漁師になっていた。それと、家業を継ぐという約束で大学に進学させてもらった。」と明快な答えが返ってきました。

学識と意欲に溢れる善裕さんには、今後、地域農業のリーダーとして、大いにご活躍されることを期待したいと思います。

(執筆・撮影 佐川良平 委員)

今回ご紹介するのは、渡辺町上釜戸で水稲と花卉栽培を営む下山田善裕さんです。

善裕さんは、北海道大学農学部大学院で遺伝子工学を学び、東日本大震災が発生した平成23年に卒業し、就農しました。

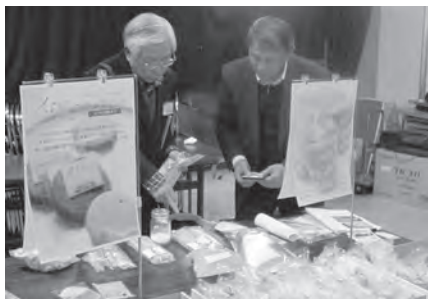
家族は、祖父母に両親、弟と妹の7人家族ですが、弟さんは、現在、東京の大学に在籍中のため、実家を離れています。

専業農家である下山田家の耕作規模は、水稲約2ヘクタールのほかに、約80アールの畑に連棟式4棟、単棟式3棟、パイプ式8棟のビニールハウスを建てて、鉢植の

ヘルシーベジ(広葉マコモ)の 丸ごと活用プロジェクト

いわき市渡辺町の「彩花園(さいかえん)」(代表・遠藤菊男氏)は、農家の想いを消費者に伝える場として、平成18年に誕生し、地元産の季節の野菜や手作りお惣菜をはじめ、四季に合わせて年間150品以上を販売する一方、「田畑に来て・見て・触れて・味わって、五感で感じてもらう」ため、体験型直売所として、野菜の収穫体験などのイベントも実施しています。

10月に販売を開始する名物「マコモタケ」は、イネ科の多年草で、肥大化した茎の根元を食します。タケノコやホワイトアスパラのようなシャキシャキ感と、香り豊かな甘みが特長で、油との相性も良いことから、中華料理でも重宝されています。その一方で、認知度の低さや、生食の保存期間が短く流通困難であることが、消費拡大・産地形成に向けての課題となっていたことから、福島県中小企業中央会の公募事業を活用し、彩花園を中心としたマコモタケの商品開発プロジェクトが始動しました。



従来処分してきたマコモタケの葉の部

分に着目したところ、多くの栄養素を含み、パウダー化したものは熱を加えても褐色しにくく鮮やかなエメラルドグリーンを発色し、若葉の爽やかな味わいも備えており、これらの特性を活かしたマコモ若葉パウダーを開発しました。

現在は地元企業と連携し、マコモの色合いと風味を備えた商品として、シヨコラ、サブレ、シフォンなどの菓子類や、うどんなどの麺類を、平成26年夏ごろに販売開始するため、最終調整を進めています。



去る2月21日には、福島県いわき合同庁舎で開催された「第2回いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」において、商業者を含めた来場者を対象に、マコモ若葉パウダーを使用した菓子類の試食などを実施し好評を得ており、今後は、マコモ若葉パウダーと様々な名産品とのマッチングを図り、新たな地域資源の創出と6次化商品開発を「マコモの里彩花園」から発信し、マコモブランドの確立を目指していくとのことです。

平成 26 年農作業労働賃金標準額が決定しました

この標準額は、市内の農作業労働賃金の適正化を図るために定めるものです。頼む人も頼まれる人もこの趣旨を理解し、ご協力をお願いいたします。

【請負労働作業】（整理田 10a あたり・単位 円）			
作 業 名		標準額	摘 要
水田作業	育 苗	670	一箱あたり 個人育苗硬化まで
	耕 起	5,800	ロータリー耕
		7,000	ブ라우耕
	畔 ぬ り	50	1メートルあたり
	代 か き	6,700	
	田 植	6,500	
	防 除	900	薬剤費別
	バインダー	7,500	ひも込み
	脱 穀	7,500	ハーベスター
	コンバイン	28,000	ワラ結束の場合 2,000 円増し
	コンバインの取 組	刈り取り	17,000
		乾 燥	8,000
		運 搬	3,000
	も み 摺	300	30 キログラムあたり 運搬を除く
畑作業	耕 起	5,600	ロータリー耕
果樹園作業	薬 剤 散 布	2,500	スピードスプレーヤ 薬剤費別

※消費税額を含む

【雇用労働作業】（一人一日あたり・単位 円）			
作 業 名		標準額	摘 要
水田作業	手 作 業	7,000	
	機 械 作 業 (機械持参)	10,000	草刈りなど
畑 作 業		6,500	
果樹園作業	整 枝 剪 定	10,000	
	果樹一般作業	7,000	
山林作業	手 作 業	9,000	下刈りなど
	機 械 作 業 (機械持参)	12,000	下刈りなど

【備考】

1. 雇用労働作業時間は、1 人 1 日 8 時間（実働）を基準として
しています。
(1) 1 時間あたりの福島県最低賃金（平成 25 年 10 月 6 日
改定）は、675 円です。
(2) 賄い費（食事代）は、含みません。
2. 労働能力（性別・年齢・経験など）、山間部と平坦部、
乾田・湿田など農作業に地域差等がある場合は、当事
者間で十分に協議のうえ調整してください。
3. 整理田を基準としていますので、未整理田、土壌条件、
農道の状況などの差異がある場合は、当事者間で十分
に協議のうえ調整してください。

農 業 委 員 会 の う ご き

●農業委員会委員選挙人名簿審査を実施

1 月 23 日（木）、農業委員会第 13 回総会を開催し、その中で農業委員による選挙人名簿審査を行いました。審査した名簿は、選挙管理委員会で縦覧期間を経て 3 月 31 日に確定し、平成 26 年 3 月 31 日から翌年 3 月 30 日までに行われる農業委員に関する選挙において使用されます。

選挙人名簿登載者数は以下のとおりです。

区	区 域	世帯数(戸)	名簿登録者数(人)		
			男	女	計
1	平・神谷・草野・赤井	876	1,010	820	1,830
2	飯野・夏井・高久・豊間	619	777	627	1,404
3	小 名 浜 ・ 常 磐	710	874	660	1,534
4	勿 来	801	981	733	1,714
5	内 郷 ・ 好 間 ・ 三 和	637	783	740	1,523
6	四 倉 ・ 久 之 浜 ・ 大 久	746	900	754	1,654
7	遠 野 ・ 田 人	538	669	565	1,234
8	小 川 ・ 川 前	551	691	588	1,279
合 計		5,478	6,685	5,487	12,172

◆農業委員会事務局の一時移転について
東分庁舎の耐震化工事に伴い、平成26年5月下旬以降、
農業委員会事務局は一時移転いたします。
移転先など詳細については、今後「広報いわき」等に
よりお知らせしますので、農業者年金の現況届を提出され
る際は、「ご注意ください。」

農地流動化情報 vol.23

農業委員会では、農地の有効利用促進を図るため、売買・賃貸借等を希望する農地の情報を提供しています。

■ 売りたい

No	農地の所在地	地目	面積 (a)
1	平赤井字四の町 (1 筆)	田	30.02
2	田人町貝泊字井出 (5 筆)	田	30.25
3	田人町貝泊字井出 (5 筆)	畑	278.16

※今回掲載した農地以外にも売買・賃貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。

■ 貸したい

No	農地の所在地	地目	面積 (a)
1	平神谷作字堂前 (2 筆)	田	15.89
2	平泉崎字上河原 (3 筆)	田	30.66
3	平泉崎字岸前 (2 筆)	田	20.18
4	平泉崎字集 (1 筆)	田	10.19
5	平泉崎字雉子町 (3 筆)	田	30.57
6	平下神谷字仲田 (1 筆)	田	10.21
7	平泉崎字川端 (6 筆)	田	39.79
8	平泉崎字上百目木 (2 筆)	田	20.82
9	四倉町字町田 (7 筆)	田	30.82

【お問い合わせ】
農業委員会事務局農地調整係
☎ 0246 (22) 7578

農業者年金

「農業者年金受給権者現況届」の提出は6月末日までです！

毎年5月下旬、農業者年金を受けている方あてに、農業者年金基金から「現況届」が郵送されます。提出期限は6月末日となっていますので、必ず提出してください。提出し忘れると、年金の入金が差し止められますのでご注意ください。

農業者年金への加入をおすすめします！

農業者年金は、厚生年金と違い2階建て部分がない国民年金に上乗せをするための農業者だけの公的年金です。次の3つの要件を満たす方が加入できます。

- 《加入要件》
- 年間60日以上農業に従事
- 20歳以上60歳未満の方
- 国民年金第1号被保険者 (保険料免除者を除く)

農業者年金の保険料は、2万円から6万7千円の範囲で、千円単位の月額保険料を設定できます。また、年の途中で月額を変更することも可能です。

平成14年1月からの新制度は、希望して加入する制度で、任意脱退が可能です。

です。納めた保険料は、加入期間に問わず年金として支給されるため、脱退一時金の支給はありません。

加入期間が短くても月々の保険料を多くすることが可能であれば、将来の支給額を増やすことができ、豊かな老後に備えることができるのではないのでしょうか。

【お問い合わせ】
農業委員会事務局 農政振興係
☎ (22) 7534

農業者年金巡回相談会が開催されました

1月16日(木)、福島県農業会議及び福島県農業協同組合中央会から農業者年金相談員を招き、いわき市農業協同組合本店にて「農業者年金巡回相談会」が開催されました。

当日は年金制度の概要説明の後、個別相談として加入していた年金制度が「旧制度」なのか「新制度」なのかを確認し、受給を希望する年金の種別や裁定請求書の提出の時期、所有農地の処分の仕方などに関する相談が行われました。

巡回相談会は、58歳以上の被保険者及び年金受給待期者を対象として例年1月に開催しております。平成26年度の相談会については、詳細日程等が決まり次第、いわき市農協及びいわき中部農協を通じてご案内いたします。

トピックス

いわき野菜de「チョコベジ」

～野菜をもっとおいしく食べる新発見～

野菜の苦味や酸味は、美味しいと感じられるようになるまでに経験による慣れが必要と言われています。JAいわき市では野菜をもっと好きになってもらおうと、(株)明治と野菜ソムリエコミュニティ福島協力ののもと、2月2日(日)にJAいわき市新鮮野菜館谷川瀬店で、市内小学生を対象とした親子13家族、36名を対象に、「いわき野菜deチョコベジ」を開催しました。講師に野菜ソムリエで栄養士の木下麻美さんを迎え、旬の野菜の話、美味しい野菜の見分け方や保存方法を学んだ後、野菜をチョコレートでコーティングして食べるチョコベジを体験しました。

食材にはいわき産の旬な野菜、大根、にんじん、ミニトマト、とっくりいも、春菊を使い、チョコレートソースにはミルクとホワイトの2種類をそれぞれ湯煎して使用しました。皮と身のあいだに栄養がある野菜は皮つきで食べやすい大きさに切り、チョコレートソースにつけて食べました。



参加された方々からは、「苦味がある野菜もチョコソースでは食べられました」とか「野菜本来の食味、食感が楽しめ、おやつ感覚で食べられました」などの感想がありました。

ご家庭でも野菜を苦手なお子さんがいましたら、是非挑戦してみてくださいいかがでしょうか？

(執筆・編集 草野城太郎 委員)

農家のための情報誌

全国農業新聞の購読をあなたも

発行…毎週金曜日(月4回)

購読料…月600円

申込先…お近くの農業委員

または農業委員会事務局

電話…(22)7534

編集委員

●荒川 光弘 ●草野城太郎
●飯高 敬一 ●渡邊 和夫 ●佐川 良平



日本では、ブルーベリーの歴史をひもといてみますと、ヨーロッパ大陸からアメリカ大陸に移住した人々が、先住民から分けてもらって食べたのが始まりとされています。ブルーベリーに冬の厳しい寒さと飢えから救われたことで、アメリカでは「命の恩人」と呼ばれているそうです。

高萩さんは、以前は夏野菜などを出荷していたそうですが、元々あったブルーベリーの木から収穫した実をなげなく出荷してみたところ、「美味しい」と評判になったことが栽培するきっかけになったそうです。

平成20年3月から、ご夫婦で専門家の指導を受け、生産者の方たちとの相談会などを重ねながら、土壌改良をはじめ本格的なブルーベリー栽培に着手しました。慣れない作業に苦労しながら、約50アールの畑に約600本、70品種の苗を植え付け、「大粒のものを中心にブルーベリーの魅力をたくさんの人に伝えたい。是非、青の宝石を味わってほしい。」そんな願いを込めて、平成23年にブルーベリー摘み取り園としてオープンする予定で、右側にブルーベリー直売の看板が見えます。いわき市大久町の高萩美智代さんが代表を務めるピコブルーベリー農園です。入口周辺の約10アールにラズベリーとブラックベリー、農園奥の休憩所周辺約40アールにスパルタンやチャンドラなどの品種が植えられています。

定でしたが、東日本大震災などの影響により、予定通りにオープンすることが出来なくなっていました。

しかし、美智代さんはいままでよくよくしていない性格のようです。

翌年24年7月には「ピコブルーベリー農園」をオープンし、来園したお客さんの笑顔を励みに、日曜日限定で営業を続けています。その他の野菜も育てており、「ブルーベリーの摘み取りに来てくれた方に野菜も食べていただけるようにしています。」との事です。

「1,000本以上植え付けして摘み取り、生産加工した野菜やジャムなどもカフェで販売したい。ブルーベリーって信じられないほどの種類があります。ひとつひとつ全然味が違います。」と、今後の目標を語る美智代さんの目が、青い宝石のように輝いているのが印象的で、今後、大久町の新たな名物になることを期待したいと思います。

(執筆・撮影 飯高敬一 委員)



地区だより
《北部地区》
(四倉・久之浜・大久)

畑に実る、青い宝石、ブルーベリー



編集後記

日本農業の今を見るとどうでしょう。食料自給率の低下、耕作放棄地の増加、後継者不足、農業従事者の高齢化による集落機能の低下、消費者のCOMA離れなど、多くの課題を抱えています。

これらの諸課題は従来指摘され続けてきたものであり、解決に向けては、新たな局面を積極的に迎えることが肝要であると思われます。

現在、国においては農政の大転換として、生産調整の見直し、担い手に対する8割以上の農地集積、6次産業化の推進など、様々な議論が重ねられています。

農業を産業として捉えた場合、顧客(消費者等)のニーズを的確に把握することは必要不可欠です。生産者が消費者と向き合い、夢と希望のもと、一丸となって日本の農業を盛り立てていきましょう。

(執筆 飯高敬一 委員)